

# 平成 27 年度前期授業改善アンケート集計結果

2015 年 9 月 2 日

主任教授 森 晃

教務委員 京相 雅樹

## 1. データ概要

表 1 概要

集計科目数	20 科目 21 回 (H26:22 科目, H25:19 科目, H24:15 科目, H23:16 科目)
平均回収率	84.8% (集計科目について, 登録者数に占める割合) (H26:79.3%)
実施日	2015 年 5 月 25 日～8 月 5 日

## 2. 各項目の評価点

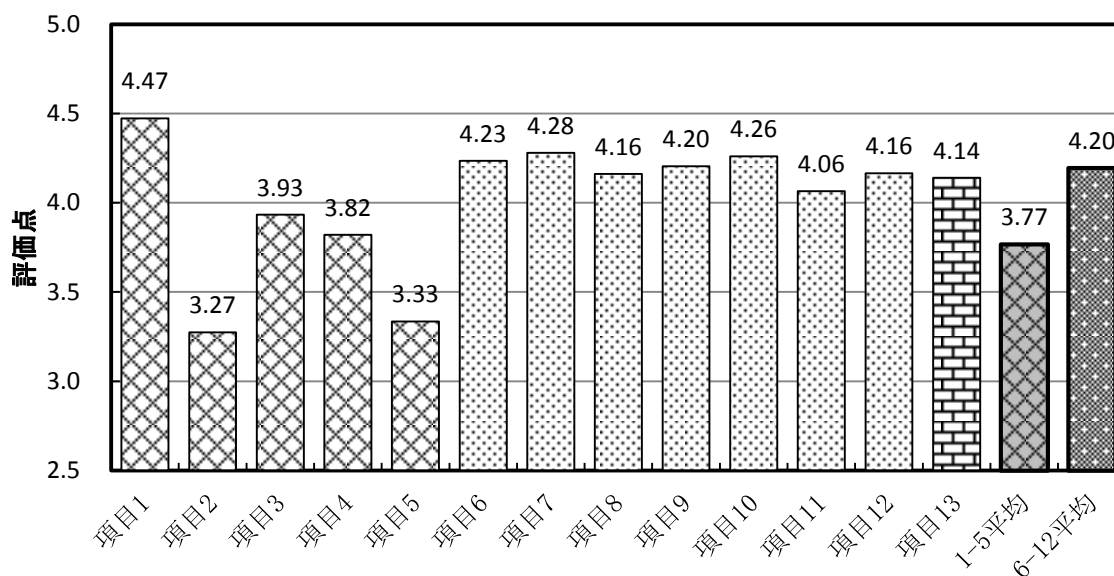


図 1 平均評価点

表 2 アンケート項目

●学生として
① この授業へは遅刻せず毎回出席しましたか。
② 予習や復習を十分に行いましたか。
③ この授業の内容に知的興味をもって参加できましたか
④ この授業の内容はよく理解できましたか
⑤ わからない部分があった場合、積極的に質問をしましたか
●教員や授業の進め方について
⑥ 教員は十分な準備と熱意で授業を行いましたか
⑦ 教員が授業で話す言葉は、明瞭で聞き取りやすかったですか
⑧ 教員は授業中に学生の理解度を確認したり、質問を積極的に受け付けたりしましたか
⑨ 教科書や配布資料、レポート、演習課題等は授業の理解に効果的でしたか
⑩ 教員は黒板やプロジェクター、その他の設備を効果的に使い、授業の理解に役立ちましたか
⑪ 教員は私語などの授業を妨害する不適切な行動をやめさせましたか
⑫ この授業の展開は、授業計画(シラバス)に照らしてみても妥当なものでしたか
●満足度、要望、その他
⑬ 自分の知識や能力の向上の見地から、この授業は満足のいくものでしたか

### 3. 対応するアンケート項目の年次推移

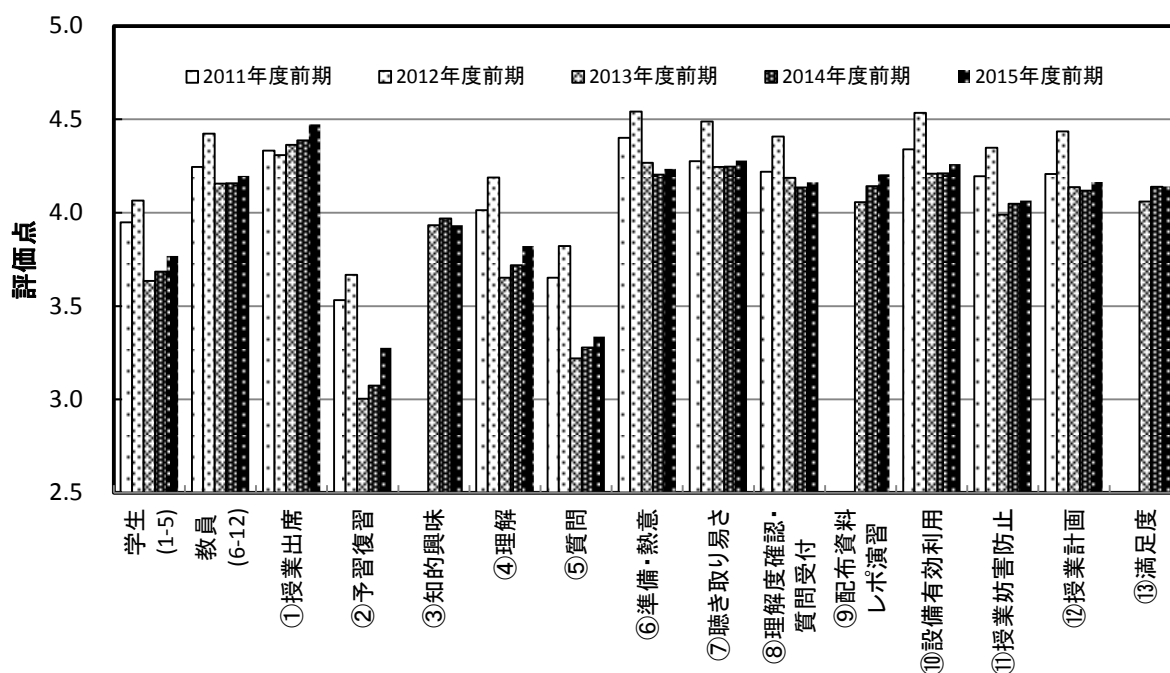


図2 対応する項目の年次推移

### 4. データについての考察

#### 4.1 平成27年度のデータについて

図1に項目ごとの得点を示した。項目番号とアンケート項目の対応は表2の通りである。

##### (1) 項目2：予習・復習

得点が極端に低くなっており、予習復習を行った学生が少なかったことが分かる。データとしては示していないが、科目ごとのばらつきを見ると、かなり大きくなっており、宿題やレポートを課していた科目では高かったものと思われる。今後総学習時間を確保するような授業形態や取り組みが奨励されることが予想されることから、授業外学習時間を増やすような工夫を加えることが喫緊の課題と考えられる。たとえばシラバスに具体的な予習、復習内容を明記するなど、学生に予習、復習として何をすれば良いのかを知らしめ、これを実施されることにより学習時間が増えればこの項目の得点は改善されると予想される。

##### (2) 項目5：質問

この項目も、例年低い項目である。授業中に頻繁に不明点がないかどうか確認するなど、授業の進め方にも工夫が必要と考えられる。

##### (3) 項目13：満足度

内容が優しすぎても難しすぎても低い評価値になる可能性があると考えられ、講義内容の検討に参考になる指標と考えられる。平均値としては4以上の得点となっており、悪くない値であるが、絶対値による評価よりも、各教員が各科目の内容を検討するために平均値との差や年次推移など、相対値を利用すべきであろう。

#### 4.2 データの推移について

図2に、昨年度までと同じアンケート項目のみについて、その数値の推移を示した。平成25年度よりアンケート項目が変更されているため、項目③、⑨、⑬については3年分のデータのみとなっている。

これによれば、アンケートの項目が改訂された3年前から、出席するように心がけたかどうかの項目以外はすべて以前より低くなっている。これはアンケート項目の改変に原因があり、その低下を重大に受け止める必要はないものと考えられる。この3年間で考えると、教員に関する項目は横ばい、学生に関する項目は向上傾向であり、前項に示した内容に関する改善など、教員の側としてさらなる向上のための施策が必要と考えられる。